# 令和２年度第３回平泉町総合教育会議

日時：令和　３年　１月２５日（月）
午前１０時００分
場所：委員会室２

## 次　　第

１　開　会

２　挨　拶　平泉町長

３　協　議
（１）今後の社会教育の方向性について

４　その他

５　閉　会

# 令和２年度第３回平泉町総合教育会議出席者名簿

| 区分 | 職　　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 構成員 | 平泉町長 | 青　木　幸　保 |
| | 平泉町教育委員会教育長 | 岩　渕　　実 |
| | 平泉町教育委員会<br>教育長職務代理者 | 本　澤　京　子 |
| | 平泉町教育委員会委員 | 山　平　功　二 |
| | 平泉町教育委員会委員 | 三　浦　英　子 |
| | 平泉町教育委員会委員 | 千　葉　義　信 |
| 学識経験者関係者 | 平泉町社会教育委員会議長 | 千　葉　高　代 |
| | 平泉町立図書館参与 | 高　橋　弘　毅 |
| | 平泉町公民館長 | 千　葉　幸　弘 |
| 事務局 | 教育委員会事務局教育次長 | 岩　渕　嘉　之 |
| | 教育委員会事務局教育次長補佐 | 千　葉　数　馬 |
| | 教育委員会事務局主任主査 | 阿　部　　純 |
| | 教育委員会事務局主任主査 | 穂　積　貴　史 |
| | 教育委員会事務局主事 | 安　倍　雅　人 |

令和２年度第３回平泉町総合教育会議会議録

日時：令和　３年　１月２５日（月）
午前１０時００分
場所：委員会室２

（岩渕教育次長）
改めまして皆様おはようございます。本日はご多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。只今から令和２年度第３回平泉町総合教育会議を開会いたします。最初に青木幸保平泉町長からご挨拶申し上げます。
（青木幸保町長）
それでは改めましておはようございます。総合会議、今年度３回目ということになりますけれども、新年になって最初の総合会議ということになります。本年は社会情勢により新年交賀会も取りやめということになりまして、今日はそういった意味では委員の方々と最初にお会いする会議であります。改めまして、明けましておめでとうございます。大変皆様にとっても希望の新年をお迎えになっていることと、心からお祝いを申し上げたいと思っております。コロナ禍の関係で様々な教育現場も、本日のテーマであります社会教育の現場も、様々な、地域全体が、正にコロナ対応をしながらということで、新たな対応を迫られながら尚且つ持続可能な、持続する、そういう地域をつくる、その中でも社会教育の果たす役割というのは、非常に大事なところだという風に思っております。学校教育、先般まで、皆さんでご協議いただきました。包括的な支援体制ですね。本年度中から立ち上げて、新年度から対応していくというかたちで、今作業を進めさせていただいております。先日、そういった意味では社会教育の基盤というのは、どのまち、どの自治体にとってとても大変大事なところだと思っております。当町においても社会教育を果たす役割というのは、学校教育または、家庭教育にも繋がるすべてだという風に認識いたしております。先日 18 日には、待望久しい社会教育施設の、当初は 12 月でしたけれども大雪によってですね、１か月ほど安全祈願祭も遅れてしまいまして、ずれてしまいまして、現場を預かる方々には大変やきもきしたところであります。発掘調査したその後も、今週中には今朝の報告では、砂をして保存して設置するという、今週中に何とか収めて、いよいよ工事を進めてというところまできたところであります。いよいよ建物のかたちが少しずつ現れて来るということなりますが、それと同時にですね、本日ご協議いただきます、社会教育の今後の方向性ということで、今までの、全く違ってということじゃなくて、今までの部分を整理をしていただきながら、更に今後、社会教育施設をある意味では、中心としながら新たな町の社会教育の在り方をご議論いただきながら、方向性を定めながら、より良き持続可能、持続できるそういう町を構築して参りたいと思います。そのためには町民一人ひとりが、皆さんで出たり入ったり、できる、そういう社会教育施設であり、社会教育の方向性が最も望ましいというような、どうぞ皆さんで議論を高めていただきながら、そして更に実行性のあるものに示して参りたいと思いま

すので、ご忌憚のないところをご議論いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。皆様方のご健勝をご祈念を申し上げます。ありがとうございます。

（岩渕教育次長）

ありがとうございました。本日の出席者につきましては、名簿をご覧いただきたいのですけれども、構成委員の町長、教育長、教育委員の皆様のほか、学識経験者としまして、本日は教育委員会から社会教育委員としてお願いしております、議長の千葉社会教育委員にご出席いただいておりますので改めてご紹介いたします。

（千葉社会教育委員）

千葉高代です。どうぞよろしくお願いいたします。

（岩渕教育次長）

それ以外に図書館の高橋参与、公民館の千葉館長にも出席していただいております。以上のメンバーで進めて参りますので本日はよろしくお願いいたします。

それでは、次第の３、協議ですけれども、ここからにつきましては、会議の進行議長を岩渕実教育長が務めます。よろしくお願いいたします。

（岩渕教育長）

改めましておはようございます。２時間という限られた時間の中でありますけれどもよろしくお願いいたします。振り返りますと、今年度３回目となりますが１回目、２回目は、中心をこれから考えなければならないコミュニティースクールという風な制度になるわけでありますが、それをどうするかという風なことで勉強をし、意見交換をしてきたところであります。今日は、社会教育の方向性という風なことで話題をちょっと変えまして、いろいろご意見を交換していってと思っておりました。先ほど町長からもお話がありましたように、社会教育施設が、安全祈願祭が終わって、いよいよ着工に向けてということで進むわけでありますが、今回は社会教育施設をどうするか、どう云う運営するか、どう云う風なことという話のその前段の部分で、平泉町の社会教育、これからの社会教育をどのように考えていったらいいか、という風なことで意見交換をしながら、皆さんの意見の中から、統一したと云いますか、共通の認識に立つような話になればいいかなという風に思っております。何かを決定するというものではありませんけれども、それぞれお一人お一人の方が違う部分もあるかと思いますので、お互いにそれを聞き合いながらこれからのことを考えていきたいと思っています。今日、庁議の後に、来年度からの総合計画の案についてのまちづくり課の方から資料が出て話し合いをしました。その中で、現在約 7 千 600 人の町民が今住んでいるわけですけれども、令和 27 年には 5 千 400 人まで減るというようなことが見込まれるという話が出ました。まさに少子高齢化、そして人口減少社会が進んでいくという風な中で社会教育の果たす役割が非常に大きいだろうな。それを突き詰めて言えばまちづくりに繋がる、人づくりに繋がる、そういうような社会教育、生涯学習という風な捉えをしていく必要があるのではないかな、そのように思っているところであります。そうしたことを頭に置きながら、それぞれ皆さんからご意見をいただければ有難いなと思います。２時間ですので、限られた時間ですので、多分お一人３回ぐらいは発言をしていただくくらいになるかなと

いう風に思いますので、たくさん思いの丈を全部ご意見をいただける形になるかどうか自信がありませんけれども、そのようなかたちでお一人お一人からお考えをお聞きしたいと思います。まず前段に資料についてですが社会教育とはということで、事務局の方でまとめたものがありますが、これはもう皆さんご存じのということになると思いますが、原則的な話ですので、ここについて説明をさせますので、それを受けてという風なことで、それぞれご意見をいただければと思います。それでは、事務局の方で社会教育とはという資料に基づいてお話いただきたいと思います。

（安倍主事）

それではおはようございます。教育委員会事務局の安倍と申します。私の方で簡単ではございますが、社会教育とはという一般的な概念について。あとは本町の取り組みと併せて説明をさせていただきます。失礼ですが座って説明をさせていただきます。

資料は全部で４枚ありますが、上から順に沿ってお話するようなかたちで進めて参ります。まず１枚目、社会教育とはでございますが、社会教育法第２条社会教育の定義で規定されております内容を見ますと、生涯学習活動のうち学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動を指し、教育活動の一つとして捉えられているところであります。中ほどにありますイメージ図についてですが、人が生まれてから将来に渡って行う様々な学習活動を、生涯学習という大きな括りで考えております。この中に学校教育、家庭教育、社会教育、個人による自己学習が含まれているといったイメージになっていります。社会教育のポイントとなりますのは、組織的な活動とされているところでありまして、社会教育は国、県、市町村等の自治体、民間団体等でも幅広く行われているものになっております。地方自治体の社会教育行政が担う役割として考えてみれば、地域住民のニーズに対応した講座の実施、現代的課題や社会的課題に応じた学習機会の提供、あとは地域住民による自主的、自発的な社会教育活動の支援や教育環境の整備等といった、きっかけをつくることや個人の方々が学んだ学習の成果を発表する機会をつくることを通じて人材育成や地域社会づくりに寄与することが社会教育に求められている役割だと考えられます。

続いて２枚目、３枚目のところでございます。本町では、町教育大綱、総合計画に基づきまして、別紙のとおり基本方針、重点政策を定め、社会教育に関する様々な取り組みを進めているところであります。

最後に４枚目のところになりますけれども、全世代型平泉学の取り組みについてということで、本町教育の軸である特色ある郷土学習プログラムの平泉学についてです。幼保小中で系統的に取り組む系統的な学習に加えまして、子どもからお年寄りまで、すべての町民を対象に提供させる学習を平泉学と位置付けております。地域全体で学び合う全世代の平泉学として、多くの町民が地域のことを学び合う場を提供し、そういった学習を通じて、町民自体が、自ら当事者意識を持って現代的な課題等々に向き合う機会を積極的に作ることで、持続可能な町づくりへと繋げることを目標に、一層の推進を図って、取り組んでいけるというような内容、状況となっております。以上、簡単ではございますが社会教育についてとい

うことで説明を終わらせていただきます。
（岩渕教育長）
　ありがとうございました。といったような原則と云いますか、基本的な考え方、そして平泉町として取り組んでいるものということで説明をさせました。あまりこれにこだわる必要はないという風に思いますが、繋がる部分があればそれに触れていただいて結構ですけれども、お話をいただきたいと思います。それでは、話の切り出しということで、今朝、急遽電話をしてお願いしましたが、今日来ていただいております社会教育委員会議長の千葉高代さんから、まず社会教育委員として活躍していただいています。そして、現状をよくお分かりだという風に思います。そういったことを踏まえて、将来的にこういう風な姿がいいなということが、多分たくさん想いはあるだろうと思いますので、話の切り出しも、千葉高代さんからお話していただいてということで、回していきたいと思いますのでよろしくお願いします。
（千葉社会教育委員）
　座ったままで失礼いたします。第３回に初で参加させていただいた上に、口火を切ってくれということで、ちょっと荷が重いのですけれども、何年か社会教育委員として関わらせてきていただきました。その中で皆さんからの意見を参考になることも多かったのですけれども、やはり先ほど教育長が仰ったとおり、町づくり、人づくりがあってこそ、人づくりがあってこそ町のかたちもつくられていくと思うところがありまして、新施設はあくまでもそれを活用する活動する場と捉えた時に、そこをどういう風に利用していく町民を育てていくことの方に目を向けていきたいなと、常々思っているところであります。取り留めない話になってしまうのですけれども、それぞれが、やはり、いろんな活動をしている方も多いと思うんですね。私たち知らないこともたくさんありますので、いろんなところに光を当てる部分もほしいと思うのですけれども、前段の流れが分からないままでお話をさせていただいて申し訳ないですが、社会教育の中で、例えば公民館活動についての内容等もいろいろ工夫されていて、とても素晴らしいなと思うところがあるのですけれども、町民がどれだけその講座とかを活用しているのかというような、例えばデータ的なものをもうちょっと具体的に数値として、何々だけではなくてグラフ化するとか、もっとパッと見た時に入ってきやすいデータ化をしていただいて、じゃここにどういう課題があるんだねと云うことが分かったり、何を求められているのかが分かったりするようなものをちょっと踏まえた上でいろんなことが多分決められていると思いますけれども、まだまだ見えないところの方が多いので、もうちょっと具体的に教えていただける、知らせていただけるということもあっていいのかなと思います。ごめんなさい。とりとめのない話でした。
（岩渕教育長）
　ありがとうございました。
　まず一巡したいと思いますので、前の方に被せて、それについてということではなくて結構ですので、大きな話で社会教育ということについてのお考えをそれぞれ思っていることをお話していただきたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

それではどなたか続いてという風にお手を挙げていただける方いらっしゃいますか？そうじゃないと指名というかたちになります。では、山平さん。

（山平委員）

今、千葉さんからお話があった中で、一つキーワードになるかなと思ったことは、いろんなことに光を当てるということが、社会教育活動の中の一つの役割であるとは思います。ですので、いろんな講座が開かれたり、そこに参加して新たな道を開拓したり、そういった方向性ができてくるのかなと思います。今お話があったとおり、参加人数の数値化という話をしますと、町民 7 千 800 人いたとして、ごく一部であったりするので、そういったところは必要になってくるのかなという想いもありますし、まだまだ知られていないというところもあると思いますので、そういったところの展開が、今後必要になってくるのかなと思います。それから新しい教育施設ができるので、そこがどうしてもクローズアップされることが多いのですが、既存の例えば長島公民館などであったり、そういったところがきちんと施設としてあるので、そういったところの活用方法をしっかりしていけば、これから参加人数も増えていく可能性が出てくるし、その地域ならではの活動も生まれてくると思うんです。そういったところ十分注視しながらやっていければなと思っておりました。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。それでは次にどなたか。本澤委員お願いします。

（本澤委員）

それでは、今、千葉高代さんのお話を聞いていて、私も同感だなと思う部分が、まずありましたので、そのことからですが、一番心に残った言葉が町民の育ちに目を向けていくということ。凄く大事なこと仰っているなと感じました。結局、町長さんも常に仰っている、今高代さんが仰ったのですが、やっぱり町づくりは人づくり。結局人づくりに尽きるので。町民一人一人が本当に生きがいを持って、レベルアップというか、向上していける社会教育でないとだめだと思いますし、それから行政の方側からだけ、お膳立てして提供してあげてというのではなくて、例えば、町民も連携したり、自分で意識を持って、協力したり社会教育活動に。そういう責任のようなものがある気がいたします。受け取るだけじゃなくて。そういうところを少しアピールっていうんでしょうかね、平泉町民に対して出して行けば、例えば、決まった方だけが公民館活動に参加するとか、そういうことではなくて、前進していける社会教育みたいなのができるのかなと感じました。これから、新しい社会教育施設ということは、やり方がこれから変わるわけで、新しい公というのが、必要になってくるのでは。今までも公じゃなくて、公共のサービスと云いますか、じゃなくて、そういうところをちょっと町民と一緒に勉強していかなきゃならないかなと感じました。まずそこまで。

（岩渕教育長）

はい。ありがとうございました。それでは次に義信さんいいですか？

（千葉委員）

いろいろあるんでしょうけれども、私の思っているところをまずお話します。とにかく町民が 7 千 800 人いれば、7 千 800 人なりの好き嫌いがあって、興味があることが 7 千 800

通りあるはずなんです。なので、とにかく、所謂住民には、自分が何が好きで、何が興味があるのかっていうところをやっぱりもう一度自覚して、それぞれが学習すると、学習という言い方がどうか分かりませんけれども、興味があることをやりたいという気持ちを出していただかないことには、どうしようもないので、そのところをどうなのかということを私の想いとすれば、行政的には、やはりできる限りのことは提供するべきだと。当然、今もそうされているという風に認識はしておりました。新しい社会教育施設のことは、まず、今の時点では、まず置いておいてこれからどうするかという時には、行政で発信する、所謂公民館活動なりという風なところはもうすでに限界にきているという風に思っておりました。なので、平泉町の社会教育施設に関しては建物、今回、建てる新社会教育施設の建設と同じように、民間活力導入まで含めたかたちでの、役所としての受け入れ態勢を取るべきなのではないかと。所謂公民館なり図書館でやっている活動は、そのまま継続していただくのですが、そこに無いからできないのではなくて、やりたい人がいて、やりたいことを相談していただければ、それは何なりと、制限なくという訳にはいきませんですけども、やる場所は提供できますし、それについて人を集めるなりということまで対応しますよみたいなかたちで、是非、平泉町内では、自由にカルチャースクールが自分で開けますよという風なことを是非進めて行ければ、平泉町としては非常に社会教育の前進になるのではないかと思っておりました。以上です。

（岩渕教育長）

それでは最後になりましたけれども三浦委員さんお願いします。

（三浦委員）

方向性というので言えば、高代さんが仰ったように、利用する社会教育施設を利用する人たちを町としてどうやって育てていくかが一番の課題かなという風に思います。公民館の活動については、広報等で情報発信されていますが、知っている人は知っているということで、まだまだ知らない活動もありますし、それから、各地区でも、かなり区で盛んに活動している区もありますので、こういう風に活動していますというようなことが、町民にもっと周知されればいいかなと。こういう活動もあるんだな。ああいう活動があるんだなということを知ることが大事かなと思います。平泉町の公民館の活動は、多種多様に渡っていろいろなことを考えてくださって、設定されているんですけれども、それを町民が自主的に自分たちで運営して行けるかというと、まだそこまでは、なかなか難しくて、企画してくださったものに参加させていただいているというかたちで、自分たちがどうやって、そのような企画をしていくかというところまではきてないので、そのような企画をどのように私たちがしていけばいいのかなというところが大きな課題かなという風に今は思います。社会教育施設ができても、運営については、多少、最初は混乱すると思いますので、行政の方から何か方向性なり、いろいろ教えていただくような場がきちんと設定される必要があるのかなと、試行錯誤をしながら、町民の中でそのような運営に携わっていける方々も育って行けるように、そこまで行政の方で筋道付けて下さればいいなと思います。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。一巡しました。感想も含めて、町長、何か今までの皆さんの話を聞いてお願いしたいと思います。

（青木幸保町長）

感想までいかないですが、先ほど挨拶でも若干お話させていただいたのですけれども、今、包括的な子育て支援体制をしっかりするということで、まだ動いているんですけども、学校にも、また保育所でも、それぞれの現場で課題があったりするんですけれども、私は全部社会教育が軸となっていると常に思っています。そういった意味では、社会教育をいかに充実させていくか、、更に充実させていくかということが、今後、まちの大きな、今、総合計画を立てているところなんです。そして、最終的には３月の議会で提案してですね、議決いただくんですけれども、今はそういったことで、会議等々をやっているところなんですけれども、その中での社会教育の位置づけというのは、どの時代が来ても私は変わらないと思います。ただ、社会が日々動いてきていますし、年々難しい様々な社会問題も出てきていますし、そして職場だったり、状況もすでに変わってきているのもあるので、それに順応しながら、町としてどうそれをしっかり、町民にも伝えるし、町民からもいただくし、そういう場所っていうのが、これからまさに総合的に社会教育を全体で考える。そういうことをしっかり取り組んで行かないといけない。そういう時代にしっかり動いてきているんだなと。この中で、教育長とも話をしたのは、かつていろんなことで、はつらつ女性の翼とかですね、農業青年の研修に出したり、いろんな子どもたちの研修、財政が厳しいからどうのこうのではなく、いくら財政が厳しくても、やっぱり人材って云いますか、子どもたちであったり、そういう青年だったり、婦人だったりそういう研修はやっていくと。よくこれは議会の悪口ではありません。私も議会でいたので、あえてお話をするのですけれども、例えばこの研修３年間続いてとか、５年間やっている、その後、その方々はその成果は、如何にといろいろ説明したり、それに答弁したり当時はしていただいた。そういう場面もありました。しかし、研修したから、来年にすぐ結果が出るわけではない。やっぱり長い目でですね、つまり何が必要かというと、持続的にやっていくということが最も大事なことだなと。というのは私、特に最近、思うのですけれども、今婦人会のリーダーをされている方とか、区長さんされている方とか、何委員やっている人だけではないのですが、地域でも地域の民生委員さんをやられたり地域の活動の先頭に立っていただく、そういった方々をずっと見ていますと、やはり若い時にですね、今、年取っているとかではなくて、今より若い時の話。そういう時に、そういう研修会とかに参加している方が、今、子どもたち巣立ってお年寄りに手をかからなくなって、そういう状況の中で、何かでお手伝いしようとかという風になっている方々が多いなというのを最近特に感じます。その分私も年を取ったということになるのですけれども、でもやっぱりあの時そうして動いて富士山の青年家に一緒に行ったなとかですね、岩手山の青年の家に行ったなとか、磐梯の国立青年の家に行ったそういった方々のメンバーなんです。実は地域でも区長さんされたり、いろんな地域の役をやったり、特別に役を持っていなくても世話をしたり、例えば、老人の敬老会の時にも地域から来て、そういう方々がメンバーに、そういう方々入っていたり、こういうことなんだなと年中で結論でなくても、長い間生活し

ているうちに、そういったことが地域を支えるというのが、本当の意味での社会教育なんだなということを最近特に実感しております。自分がこういう立場にあるから、目に見えるから、そうお話するんですけれども、そういった意味では、社会教育、今すぐ結論を求めないこともあるだろうし、また少し長い目で見なくてはならないことがあるだろうということでですね、高代さんの何だか訳の分からないことを言ってしまったとさっき言いましたけれども、一番訳の分からないことを言ったのは私ですけれども、総合的に言えば、今回の社会教育に関しては、今後こういうことが大事なんだと今感じているところであります。取り留めのない話ですが。長くなりました。

（岩渕教育長）

いいえ。ありがとうございました。

一巡してそれぞれの話を聞いていて、キーワードですかね、共通する部分もあったり、これから話に発展させる意味では、大変繋げて行けば何か一つのかたちが見えてくるのではないかという感じはしました。ちょっと前段で高代さんから、今の社会教育の現状という風なことについて、どういう風な課題が浮かび上がってくるのかなという話もあったり、せっかくここに図書館の参与と公民館館長に来てもらっていますので、今の公民館や図書館を利用されている方々のことを頭に思い浮かべながらですね、今感じられていることそれぞれのところあると思いますので、そのお話をしていただきたいなという風に思います。いきなり振るかたちになりますけれども、では、図書館の高橋参与から感じられていることをお話いただきたいと思います。

（高橋図書館参与）

今として云えばコロナのことで人数制限とか、一番酷い時には町内の方だけとか。利用制限ということで、いろいろご迷惑をかけて、今いろいろ町外から来ている方も結構いるんですけれども「どうして？」とか、いろいろあったのですけれども、それに関しては、だいぶ理解をしていただいて、鎮静化しているんですけれども、ある意味かなり厳しい中でというところです。冊数の方は、そんなに多くは落ちなくて、家で過ごす時間が増えて、冊数の方は増えてます。何しろ狭い図書館ですので、いろいろある方から「こういう教室をやってみてはいいんじゃないですか？」とか、今、エッセーの募集何かをしているのですが、そのエッセー教室をやったらいいのではないかという提案をいただいているんですけれども、何しろそういう部屋も無いものですから、こんな新しい教育施設になればいろいろ公民館とかも一緒の運営ですので、そこら辺も上手く臨機応変にトライしてみることもできるのかなと。いろいろ町民の方から、そういうこんな教室、公民館との重複も考えなければならないのですが、そこら辺を思っているのではないかなと。そこら辺、発掘、いろいろ意見を聞きながら、発掘していきたいなと、ちょっといろんな方向に皆さんの提案を実現できるようなできるものはやってみたいなと、せっかくそういう施設ができますので、そういう考えは持っています。これからはちょっとそこら辺も調査というところが新しい施設ができればやっていきたいなというところは思っています。

あとはいろいろ町民からの本当の求めているものというのは、図書館というと、一人で本

を読んでということなんでしょうけども、我々が活動すれば一番いいなと。どんどん参加したいなと。参加型のいろんな交流しながら一緒にこういう皆で、共有の場に参加しているんだという気持ちの醸成する活動がですね、よりコアな図書館の運営のコアな応援団、そういうものができるんじゃないかなと。そこら辺もちょっと図書館の応援団づくり、いろんな活動を仕組んでいきたいなと、その辺りのちょっとコミュニケーションの場を工夫しながら、そういう場も施設もできることですから、そういうのにも活用していきたいなというところで、町民参加型の図書館運営というようなところで、いろいろ夢見て、いろいろ頭の中でいろいろ企画しているところであります。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。図書館は本を借りに行く。返しに来るだけではないという風なことだと思います。集う場所で居場所になると。それが発展すれば、今お話があった参加型とか、交流の場とかという風なことに繋がる。そして、自分たちで図書館を育てていく。そういう意味では応援団という考え方に繋がると思います。そういった場所だと思います。ありがとうございました。

では、公民館館長さんから公民館の活動を含めてお話いただきたいと思います。

（千葉公民館長）

公民館の講座につきましては、毎年いろいろ改廃新規事業も含めていろいろ検討しているんですけれども、何十年も前から長く続く講座もございまして、その中でも新しいものは取り入れようということで検討はしています。全町民の方がなるべく多く参加するようなかたちでというのは、もちろん理想ではございますけれども、例えば、地域でやるもの、会社でやるもの、それから個人でやるもの、サークルで活動するもの、それぞれの立場で、場面で社会教育というのは実施できるものですし、その中の一端として、公民館講座ということで学習機会の提供と云うことで考えております。参加人数は 1 講座だいたい定員 20 人くらいで今までやってきたのですが、今現在はコロナの関係で半分ぐらいで実施しております。どうしても講座の実施回数、対象人数を考えますと、なかなか全町民まんべんなく参加というのは、なかなか難しいとは思うのですけれども、参加していただいた方が地域に戻ってですね、体験した内容を地域の活動に活かしてもらえればという風には考えております。例えば、行政区で行う婦人会の研修とか、公民館でこういう所に行ってきたよ。ああいういいところあったよというようなことで、そういったことで広がることもあるのかなという風に考えております。それから募集につきましては、見ない方、公民館の講座を知らない方も結構あると思います。今年度、新規事業として、南三陸町の化石発掘体験講座というのを募集したのですが、申し込みが 3 人だけということで、きっと興味のある人、見れば参加したい人はいると思うのですけど、やはり広報は見ていないのかな。ただし、その広報を見てもらうにしても、公民館だよりということで、1 ページの紙面は頂いているのですが、その中にその月の何講座か募集があるとその講座を紹介する文面が、だいたい 30 文字とか 50 文字とか、その中で表現をしないといけないというところで、どうしてもなかなか良い講座なんだけども表現しきれないところがあって、広報だけではなかなか厳しいなと。別刷りの

チラシについては、広報掲載したものはチラシ折込は原則禁止ということになっているので、それもちょっと、もしできればそれが一番良いんですけども、班回覧何かもちょっとそれはできないというような、今現在はそういう状況になっております。

それから新規事業です。いろいろ考えるんですが、講座を対応していただく講師ですね。そちらを探すのが、またこういうのがやりたいんだけども対応してくれる人が、なかなか分からないということがありまして、どうしても断念するものがあります。大きい市、例えば仙台市とかですね、あとは県単位で事前の講師の登録制度をやっているところがあります。予め、年度当初に登録しておいて、それを各県内とか、市内の公民館が、その講師に頼むというようなことでやるところがあるのですが、それもいいなと思ったのですが、どうしても平泉町だけでやるというのは難しいところがあるかなと考えております。なので、岩手県として、そういう講師の提供とか、確保しやすいようなかたちの対応を検討をしていただければいいなという風な考えを持ちつつ２年間過ごして参りました。以上です。

（岩渕教育長）

はい。ありがとうございました。ご苦労なさっていることがよく分かりました。今お話の中で、様々な町民に学習の機会があるのだけれども、公民館ならではの学習の場というのは、一体どういう風なものがあるんだろうかということを少し考えてみる必要があるのかなとそんな風なことをお聞きしていて感じました。さて一通りというか、話をしていただいたわけですけれども、２巡目に入りますけれども、そこは順番ということではなくて、今、皆さんの話を聞きながらこんなことも感じた、考えたということがあれば手を挙げていただいてお話いただきたいと思うのですがいかがでしょうか？

（千葉委員）

先程、町長からのお話の中で、いただいた中で、私も実はそうだったなと思っているところがありまして、私の子どもがまだ小学生の時は、旧名川町との交流がありました。小学校５年生の時点で、平泉町内の子どもは全員、親は自腹でしたけれども、親も付いて行って交流をして、一泊なんですね。５年生の時点で学習旅行なんですね。一回ね。そんなところで平泉町凄いですねという風なことを周りから凄く言われたのがあって、やっぱり、その当時の子どもたちは、私がＰＴＡの役員している時だったので、実は町長さんもそうだったですけれども、その頃の子どもたち、今ちょうど 30 前後ですね。30 歳前後になりました。やっぱり、ちょっと違うんですね。何ていうんでしょうか。いろんな体験をしているからなんだろうと今私の想いで見ているからそうですけども、ものに対する対処の仕方というか、入って行き方、興味の持ち方を知っているんだろうなという風なことを見たりしているのが一つと、それから実は私もＰＴＡをやっている時はいろんなやつ、充て職が来たりのもあったんですが、いろんな講座を聞きました。いろんなお話を聞いている時に、なぜか自分でしゃべりたくなるんですね。こんなこともあったりして、それがＰＴＡが終わった時点においてどんと何もなくなって、人の話を聞くという機会がなくなると興味が出なくなるんですね。それで会合に行きたくなくなるんですね。行く必要がないし、別にそこに行かなくてもネットはあるし、テレビはあるし、何でもあるから別にそこに行く必要がないし、自分の好きな

こととという風なことになってしまうようなのがあったので、その予算がないからそれがなくなった。情勢もあって向こうの名川町の小学校の話をすれば、名川町も合併して、今は名川町という町はないので、そういうところで、実は交流はなくなったのですけれども、そんな中で、子どもたちだけではなくて、いろんなところに出て行って、話を聞く。呼んで聞くこともいいんですけれども、やっぱりそれっていうのは、非常に住民、所謂町民のそれぞれの宝になるという風に思っておりますので、いろんなところでいいので、ＰＴＡだからというわけではなくて、それこそ先ほど町長さんが話したように、農業の青年の方々のとか、いろんなところがあるので、是非それを町としての予算をそこは惜しまずに使えるような方向でいくことが一番、もしかしたら平泉町の社会教育たる地盤の基礎になるところになるのではないだろうかなと思いました。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。では続いてどなたかどうぞ。

（山平委員）

先程、公民館長の話を聞いて苦労されているというのは十分分かるのですけれども、昨年からなるべく参加しようとしている歴史教室。一番人気ではないかなと思うのですけど。歴史の町ですので非常に興味深い人がたくさんいると思うんです。その中で町民以外にも一関近隣、一関だったり、奥州市からの参加も多いと聞きました。その中で、やはり歴史の町ですので、そういった歴史教室に重要な位置づけじゃないかなと思うんですけども、講座の中についてもいろいろ各先生たちの話があるんですけれども、非常に興味深い話というのは、たくさんあるので、聞くと聞かないでは凄く差が出てくる。私も職業上やはり知っていなきゃならないことがたくさんありまして、それをベースとして皆さんに紹介するようなことに繋がって、勉強になっています。今、平泉学ということで、全世代型の教育が始まっている中で、早い段階からすると幼保から、どちからというと我々より子どもたちの方が知っている場合があるケースも今後出てくると思うんですけども、大人も勉強しながらやっていかないといけない。生きていかなきゃいけない場面であれば、より一層、公民館活動だったり、生涯学習の活発化というところを進める上では、今、建設が進められる新社会教育施設は、一つの起爆剤になるということは確かだと思うんですね。これを最大のチャンスと捉えるような取り組みをやっていくことが重要ではないかと思います。いろいろデジタル化であったり、新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式だったり、いろいろ考えていかなきゃならないところはたくさんあって、我々が数年前に予想だにしていなかったことが起きているわけで、それにある程度対応していかないといけないというところもあります。最近で言えば、ギガスクール構想ということで、学校の方でも対応を取り始めてきています。数年前には想定していないことが、現実に実施されてきていますので、そういったところを考えながら、いろんな講座等出来て行けば、参加者も増えていくんじゃないかなと思うし、当日、例えば講演とかであれば、リモートでの参加とか考えていく必要もあるのかなと思いましたので、そういったところを皆さんで協議できればなと思います。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。公民館のいろいろなカルチャースクールそういったようなことについて関わってお話をいただきました。それでは、続けて高代さんいかがでしょうか。

（千葉社会教育委員）

町長の話のとおり、やはりいろんなものに参加した人が、あとになってから活躍の場、活躍しているんだよというのがなるほどなと思って、これは社会教育での息の長い話だなというのはなるほどなと思っています。例えば、子どもの頃、平泉学で、子どもたち一生懸命勉強していますが、それがきっとあと何年後かに花を咲くことがあるんじゃないかという期待もしています。今いろいろなお話を聞きながら、千葉さんのお話を聞いて「人の話を聞く機会がなくなると。」というお話がありましたけれども、本当に今コロナで、対面でいろんなことしにくい状況ですが、昨日ちょっとあるところで雑談って大事だよねという話をちょっとしたことがありました。そんなところからいろんな話の中から良いアイデアだったりヒントが生まれることをいっぱいあるのですけれども、ちょっといろんなアイデアを持っている人たちがたくさんいるんですけれども、どうやったらかたちにしてやれるかというのが分からない、方法が分からないという人がいっぱいいると思うので、その運営するためのお手伝い、自分が得意なことを結び付けてあげられるようなかたちが、自然に何かこう地域の中であったりとか、家庭の中でもそうなんでしょうけども、子どもがどういうところに興味を持っているか、どう育てていくかで、各家庭なさっていると思うんですけども、それが当たり前にやっていくと何かいろいろな活動の中での会話だったり、地域の中での会話だったり、いろんなところでのお話を聞いて刺激を受けることによって、凄く大事だなっていう風に改めて皆さんのお話を聞きながら思ったところです。やっぱり知らないことをかたちにするための何かサポーターになってくださる方がほしいなと思っています。

（岩渕教育長）

今のお話に関わって、1回目のお話で本澤さんの方から、向上して行ける社会教育っていう話ありましたし、お膳立てされるだけではなくて連携、協力したり町民自ら責任を持ってという風なお話もありました。

それから三浦委員さんからは、自主的に運営しているところまで行っていないのではないか。ゆくゆくは自分たちで企画をしてという風なそんなお話もありました。それからに絡めてご発言をいただければと思います。本澤さんいかがでしょうか。

（本澤委員）

昔からというか、公民館も図書館も何十年も前からやってきていることなんですが、やっぱり時代に併せて、本当に変わっていますので、日々、本当に多様性とか大変難しい問題も、人口減少の問題もあるし、高齢化、子どもたちが少なくなっているということもありますし、変わってきていますので、それに併せて、やっぱり、公民館の事業や図書館の活動も変わっていくべき。これは当然だと思うのですが、まず図書館の方で、一つ私も何年も前から何回か教育委員会議でもお話させていただいてきたことなんですけども、以前の平泉町の図書館ではもう今はないですね。平泉町というのが、世界遺産にもなりましたし、本当に昔から、芭蕉の時代から平泉は注目されてきたところなんですが、もうちょっと大袈裟かもしれま

せんが、世界の平泉町になってきているので、そこのニーズと云いますか、併せた図書館の運営が、絶対もう必要ですし、あと基本的な図書館法で定められている役割も、まだ平泉町の図書館は、片方だけなんですよね。本を貸し出すという、資料保存、アーカイブ、いろんな資料をきちんと保存して、いつでも要望があった人にはちゃんと見せていくというそういう役割、特に遺跡の価値とかそういうのがどんどんどんどん変わってきていますし、平泉町の歴史が全く明らかになっていく度合いも凄い早いペースで、この発掘もそのとおりですし、大きな建物が出てきましたし、大通りがあったことも証明されつつありますし、そういうこと高橋参与は一番長く図書館長さんを今は参与でいらっしゃるので体験なさっていると思うのですが、遠くの方から問い合わせがあるんですね。「こういう資料はありませんか？平泉町にはあるはずですよ。」とか。そういうことに答えていくその役割というのは、担っていかなければならないと思います。それがまだできていないと思います。アーカイブ的な資料保存という役割は、ちょっとスペースもなかったですし、今度はできる。やらなければならないなと感じます。以上です。

それから、新しい、先ほど申し上げた公というか、公共のサービスということでいうと、ちょっと高橋さんからお話が出てきましたが、いろんな団体、行政役場の職員公民館職員だけ携わるのではなくて、各ＮＰＯとかそういうサークル団体とか、関係機関、或いは他の企業ですね。そういう社会教育をやりたいという企業も出て、これから出てきていますし、今も、そういうところといろんな連携をしていかないと、あと高齢化の関係で社会福祉施設だとか、町民福祉課とも連携していかないといけないことだと思いますし、いろんなところとちょっと大変にはなってくるんですけれども、連携と、お互い支援し合うみたいなそういうのもこれからの社会教育には必要になってくるのかなと、ちょっと感じています。

（岩渕教育長）

それでは三浦委員さんお願いします。

（三浦委員）

社会教育施設の本質というのは、学びたい時に学ぶ場があるというか、その要請を要望を聞いてくれる場で、そして、その実現のためにその筋道を援助してくれるという場であると共に学びたくなるような町民の要望とか時代の要請にある、そういう各種講座、それから人づくりや町づくりに必要な講座を提供しているという両面があると思うんです。近隣の市町村の社会教育施設のありようというのを見ると、自主サークルの方々の運営は、イメージがついているんですが、今まで平泉町では公民館が主催して、開催していた講座が、その社会教育施設の中で、どのように運営されていくのかという、その自主サークルは自主サークルで運営できると思うのですが、公民館が主催していた町づくり、人づくりに必要と思われるような、そういう講座を、これからどのように開催していくのかというイメージがまだどのように連携しながら実現していくのかなというのがまだつかないので、今本澤委員さんが仰ったように、社会教育施設完成して、その運営委員を選ぶにあたっては、町に今まである各種団体の方々、それから自主サークルの方々を網羅しながら、その運営委員会が充実したものになるような形を作って行く必要があるかなという風に思います。本当に、図書館参

与の高橋先生が仰ったように、やっぱりこういうのをやってはどうかっていうような希望を持っている方々も、かなりいらっしゃるかなと思います。こういうのは講師の方を呼んでやってほしいなとかいう方もいらっしゃるので、そういう方々の希望が実現していくように、それからお互いに、今実際になされている自主サークルの方々が、お互いに情報交換できるようなそういう場を作っていただければ、もっともっとこういうのを学びたいという要望が、それぞれ町民の方にも生まれてくるかなと思います。眠っている面を何とか掘り起こしていければなという風に思っています。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。お話を聞いていてやっぱり頭の片隅ではなくて、頭のかなり大部分とは言いませんけども、2年間のという、施設ができるという風なことが前提にあるわけですが、そういうかたちでお話をしていただいているわけでありますけれども、そっちの方に行くと、例えば、今、三浦委員さんの話で言えば来年度、所謂建設が進む中で、今度は運営をどうするかという話が、運営を担当する会社だけに任せるのではなくてという風なことで、町内でもそういったようなワークショップをしながら、そして、どういう組織立てをしてなっていくのか、そこでいろいろな、今お話があったようなことの課題はですね、論議していくことになると思います。その話になっていくと、ほとんどそれでそちらの話だけになってしまいますので、もう1回、原則的なというか、所謂平泉町として社会教育をどう考えていくか。その部分で、なくてはならないというかこれだけは大事にしないといけないというようなことということで、今日は話をしていただければいいかなと。どうしても繋がりますので、そちらに結び付く話になるのかなと思いますけれども、もう少しお話いただければと思います。

町長さんここまでお話をお聞きしてまた新たに考えられた分と、皆さんのお話しを聞いて何かお願いしたいんですが。いかがでしょうか。

（青木幸保町長）

今、教育長がお話をしたことに応えているかどうかは別として、一方的にお話をさせていただきます。特に教育大綱の中に平泉学が中心に据えてあるのですけれども、実は先日、振興局の職員に1時間講演をお願いしたいという話がありまして、講演をさせていただいたんです。大変私にとっては、大変不得意なところでありまして、何を言ったらいいか、職員は、今こういう状況ですからネットで。一関局に行ったのですけれども、40名くらいその他に県南局、花巻でもそれぞれの方が来ていますと。結構な方が聞いていたのですが、いきなり1オクターブから2オクターブぐらい上がってしゃべってしまったんですけど、その時に平泉学についてお話をさせていただきました。今、総合計画についてお話をさせていただいたのですが、総合計画の中に去年、一昨年になるのですが、町内、皆さんの恐らく書いた方もあると思うんですが、町内アンケートを取らせていただきました。そんな中で高校生の生徒さんたちも全員。それで7千600人、500人の人口に2千人くらい回収になりました。それで、局の人たちびっくりしていたのですが、7千なんぼのところで2千あつまるというのは、例え出しても集まらないのがアンケートって割合あるんです。その中でそのくら

い集まった。寄せていただいたということは、私は自画自賛するわけではないですけれども、やっぱり町のそういった取り組みが今教育委員の方々、教育委員会の方々中心にしながら平泉学について取り組んで、そしてそういう方々も平泉学を学ぶ生徒さんたち、早い人で 30 歳くらいになりますよね。そういう風になってきているんですね。そういった取り組みが持続して、私も応えようと高校生も、高校生だけではなくて、全体の 7 割が平泉が好きだと、やっぱり平泉に住みたいということだと。そして高校生が終わると、今度 4 割くらいにがたっと減ってですね、ここに住みたいという人が 4 割くらい。でもやっぱり 1 回出たいと思う人がいるわけなんですね。三浦先生がいた時だったか、うちの方で世界遺産登録 5 周年の時に小学校の子どもたちと中学校の生徒さんたちと対談を町長室でやったのですが、その時に言われたことが「町長さん、私たちはここに住みたいのです。でもやっぱり働く場所が無い。ですからやっぱり一旦は、高校もないし大学ももちろんない。1 回出るけれども平泉に戻りたいのだ。」と。是非、働く場所をというのが、物凄く印象的でですね、そういった中で企業誘致が実現できているのはですね、やっぱりそういったエネルギーを私も与えていただいたからですね、こうして定住構想を一関市さんと一緒にしながら動いてきて今そういったかたちで受け入れているそういった中で今の企業さん、長島製作所さん、フタバさんも、それ以前にも入っていらっしゃる企業もありますが、当時ですね、私たちの町で、一関市さんも奥州市さんもですが企業を入れるのに優遇税制とかいろいろありますよね。そこは、だいたい奥州市さんも一関市さんも同じなんだけれども、ここちょっと視点を変えようと、変えようと云うのをやらないと、それはそれでやるんだけれども、やはりそこで働く人たちが子どもたちを安心して育てれる、そういう町だということをやっぱりそれを今後しっかりと実現していこうというのが新たな企業誘致、定住圏構想の平泉なりのあれだったんです。実は企業誘致の名古屋へ行ったときに、実は今の長島製作所の社長さんにお会いして、これ本当に偶然なんだけど、その社長さんが私に何を聞いたかというと「待機児童は平泉では今何人ですか？」と聞かれたんです。その時はゼロでしたから「ゼロです。」と。そうしたらもの凄く驚かれて「そうなんですか。」と。実を言うと後で知ったのですけれども、長島製作所さんはそういった男性も女性も子育ての休暇ですよね、育児休暇を男性も女性も全部取得しているそうです。企業全体でも長島製作所さんが取り組んでいることはいろんな表彰も受けているんです。そういうことを聞かれて企業さんに聞かれるのかと思ったのですけれども、取り組んでいたことそのままだ。それは全く偶然なんですけど、というのはですね、これからの本当に地域というのは、こういう事ますます大事になっていく、そういう時だなと。まさに今うちの方でみなさんのお力添えでですね、社会教育施設が着工するところなんですが、そこを中心としながら社会教育ということが、こういって皆が集まってですね、議論をする、お話をする、そういう新たな施設を中心としながら地域の人たちが中心となりながら、新たなそういう取り組みをしていくというのがまさしく世界遺産 10 年になって、これからのまた 10 年の第一歩としては、大変新たな一歩だという風に思います。是非、いろんな地域ではいろんな活動をされている方、今までとはまた変わったかたちで、社会教育での在り方だったり、活動だったり、変えて行かなくてはならない。変わってなく

てはならない。それは先ほどどなたか話しましたが、新たに民間活力を活用するというのはそこに一つあると思います。そんな中でですね、やはりどの時代が来ても先頭に立って行くのはやっぱり、そこに住む人たちですから。それは老いも若きもですから、そこだけはしっかり捉えてですね、今の総合教育の中にですね、平泉学という位置づけは、これは私はもの凄い取り組みだと、自画自賛しております。そして、皆さんは、これは本当にそれを伝えていく、実践していく、私たちには責任があるという風に思っていますので、是非、それを中心としながらですね、今後もお願いしたいなという想いであります。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。

（三浦委員）

町長さんにお話をしていただいて、高代さんの初代から平泉学というのが、世界遺産登録の時期、真っただ中に冊子を作って、中学校の 3 年生からですけれども、地域をよく知ろう、自分たち住んでいる町民がまず地域をよく知って、そして世界遺産へという機運で始まったのですが、このように 10 年かかってもう全世代型へ体系化されて浸透してきています。今、その子どもたちが 25 歳になっていますので、さっき千葉委員さんも仰ったように、学んできたこと、体験してきたことが、必ず活かされてくると思います。全世代型平泉学の取り組みというのが、平泉町の根底にあるということは凄く特徴的ですし、私たち平泉町民にとって柱になるのではないかなと思います。子どもたちが、今まだ 20 代ですけれども地域に戻って来ることを凄く、みな希望しているのですが、なかなか今町長さんが仰ったように働く場、それから生活する場として、このようになかなか難しい情勢になってきているのですが、町民がこれから自分たちの町をどういう風にしていくかということが、今の子どもたちが学んでいますので、それが土台になって、平泉町を作っていくのかなと思います。その上で、社会教育というのを考えると、これが根付いて、平泉っていうものをどのようにしていきたいかというのを町民がみんなで考えられる場、生涯学習の集いとか、様々な場で考えられる場がこれからも設定していくということが、一番の根底にあるのではないかなと思っています。今聞きながら、子どもたちが戻って来て、この町を支えていくんだと思った時に、やっぱりこれからもこれを社会教育の柱に据えながら進んでいくべきだなという風に思いました。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。

今のお話に絡んで関連して何かご発言ありませんか？

それでは、全世代型のお話が出ましたので横長の全世代型の体系図というそういったご覧いただきたいと思いますけれども、平成 26 年？ちょっとはっきりしていないのですけれども、その辺りに基本的なかたちは作りました。それで、「幼保小中の系統的な平泉学の取り組み」というところから、学校教育の方からスタートして、系統性をということで始まったところでありますけれども、右の方に動いていくかたちになるわけでありますが、現在学び続ける生涯学習ということで、そこである取り組み内容というのは、今やっていることを

全部ピックアップして上げてみたわけです。一番右側の地域課題解決型学習というのは、これからということになります。先ほどもお話がいろいろあったわけでありますけれども、所謂町民の方々が自ら町づくり、人づくりにという風なことで、そういう社会教育、生涯学習と考えたときに、やっぱり所謂行政と町民の方々が一体となって、それぞれ人口減少社会が続く平泉の中でどういったことを自ら行動をおこしていくか、論議を巻き起こしていくかという風なことのためには、今後これは大事になってくるだろうなと、それが新しい施設ができた時には、場としてそこが核になって、それぞれ関心のある方々、或いは行動してみたいという方々が集まってやっていくという風なかたちで、そのことが持続可能な町づくりという風なことに繋がっていくだろうという風な大きな構想なわけであります。そういったようなことに、三浦委員さんからも社会教育として、その考えられる場を設定していくということにも繋がる部分が、それ全てではないですが、という風に思いますけれども、関連付けられるかなと思います。それが平泉として大きな特徴になるであろうと、そんな風に思います。2月の第1週の日曜日に一関で、県教委と岩手大学が共催というかたちで、平泉学フォーラムが開かれます。今までもそういった会はあったのですが、担当する県教委の方が年明け前ですね、12 月辺りだったと思います。私の元に、平泉の平泉学というのはどういう風にしているのですかということを聞きに来ました。今、お話をしたような、所謂全世代型ということについてお話したのですが、多分いらっしゃった方は、所謂歴史的なことだけに特化した平泉学という風なことで、それを教育の場でどういう風に指導していったらいいか、どういうカリキュラムを組み立てをして、学校でやってらっしゃるか、だけを聞きたかったんだろうと思いますが。そういう意味では私の話に、意外というか、そういうことなんですねということで、全く視点が違った。私はここにありますように「過去に学び今を見つめ未来を考える。」という所謂、過去、現在、未来という風なことまで含めた、子どもからお年寄りまで、全ての方が平泉について考えると、将来のことまで触れていくという風なことで取り組んでいる。そういうような中身でありますので、そのフォーラムの発想とは違うっていう風なことだという風に分かっていただいたかなと思っているところであります。もちろん過去のことは大事なことでありますけれども、脈々として伝わってきている、そういう生き方というのは平泉にあるわけであります。そういったようなことではちょっと違いはあったなと。多分、他の地域の方々平泉学というと「あ、藤原三代だね。」と、それだけで終わってしまうと思ってしまうのですが、そうではないということ、分かっていただかなきゃならないと思いますし、町民の方々にも段々浸透しているわけでありますけれども、一緒になって学ぶという風な場づくりということで考えているというところであります。何かこの件についてもう少しここはちょっと考えた方がいいんじゃないかとか、いう風なことがあればお話をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

（本澤委員）

今の教育長さんのお話についての事例と云いますか、付け足しと云いますか。実は、平泉の全世代型平泉学のこの資料の一番下の枠の中に、幼保小中で取り組む平泉学の中の具体的なプログラムの中の郷土芸能体験講座というのが位置付けてあるのですが、達谷の毘沙

門神楽の講座をずっと続けてきておりまして、実は参加する子どもたちが減っていかないという変な言い方ですがどんどん増えていまして、あとは辞めない。本当は中学生までが対象なんだけども、中学校卒業しても高校生になっても大学生になっても稽古に来たいという子どもたちが増えております。これは、結局これも、究極的には、これが毘沙門神楽絶対将来もう確実に、安泰のちょっと兆しが見えているというか、持続可能な町づくりの方に繋がって行く、私は事例じゃないかなと今教育長さんのお話を聞きながら考えておりました。是非、皆さんにそれを紹介したい。そういう一つの毘沙門神楽が一つのことなんですが、そういうことがいっぱい平泉町でたくさん他のものもどんどん取り組めるように増えていくといいのかなと思っております。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。だんだん教育芸能的なものも、かつてはやられていた方消えてきている。毘沙門神楽は、お陰様で、今年度は 15 人まで、受講生が増えてきているということが嬉しいことなんですが、周りでは、そういった継承がだんだんできなくなってきているという状況もあるわけですので、何とか本澤委員さんが仰るようにもっと別なものについても復活と云いますか、少しずつでも広がって行ければいいなということで、ありがとうございました。他にこの全世代型の平泉学についての話ございませんか。それでは残りの時間もあと 30 分くらいということですので最終的なまとめはですね、こういう風な意見があった。こういう風な考え方があるんだということは、事務局の方で整理をしてですね、そして、後で皆さんにお知らせをするということにしたいと思います。今日は言いっぱなしで結構でありますので是非別なまた視点でも構いませんのでお話をいただきたいと思います。そんな風に思います。

山平さんいかがでしょうか？いきなり振りますが。

（山平委員）

今までのキーワードの中に、向上し続けるところがあると思うのですけれども、その中で発展型になって行けばいいのかなと思っています。というのも、先ほど公民館長が言っていたとおり、今は、公民館の方で企画して参加してもらってるということで、その参加された方が自主的に活動を行っていけるには、発展型になっていくと思いますし、それを繋げるのがコーディネートされる方だと思うのですが、今度、新社会教育施設の運営に関わるので、社会教育主事が配置されると思っておりましたけれども、そういった役割を担っていくのではないかと思っております。非常にそれらを発掘するのは大変だと思うのですが、今後そういう風に動いて行けば発展し続ける、向上し続ける人づくりができてくるのではないかなと思いました。以上でございます。

（岩渕教育長）

ありがとうございます。そうあればいいなと私もコーディネーター是非必要ですし、或いは、社会教育担当の中にそういったことを中心になって動くそういう人材が必要だなと思っています。。ありがとうございます。義信さんどうでしょうか？

（千葉委員）

では、私の思いだけをお話しますが、平泉町の社会教育学ですので、社会教育委員にもう少し頑張っていただきたい。前職として言いにくいのですが、私、前そうだったので言いにくいところなのですが、実は社会教育委員は、所謂、今いる教育委員と違いまして、多種多様の方々の代表に集まっていただく唯一の場所でして、実は会議も年に３回しかなくてですね、今の高代議長さんと一緒に私は社会教育委員になったのですが、その時に、まずなって一番最初の時にびっくりしたのは、役場担当者からの報告を聞いて終わりという会議でございました。意見も何もなしと。何も協議するところなし、という風なことだったんですが、その後、皆さんと一緒に報告半分、それから皆さんのご意見をいただくところを半分という風にしたのですが、いずれにしろ、何せ年に３回しかないので、それ以外、何もなくてそれでは皆さんの想いを聞きましょうかと言って１回終わりますよね。次の機会に聞いて終わりますよね。何かしませんか？と言って終わってしまうので、是非、今、本澤委員さんからもお話があったとおり、伝統芸能だったりするところも、代表の方が出席されているのですね。実際に、その話もかなり出ている中で、ただ単に集まっていただいて、報告を受けてということだけなので、社会教育委員さんの仕事に、実際にはやりたいのに、できない状態なので、平泉町の社会教育委員会はこういう風なことだということで、是非、会議の回数、予算は増えないと思いますが、是非、そこを増やしていただいて、そこを先頭に立って各種団体から集まっていただいた人たちが持ち帰って協議できるような、そういう風なところからまず最初に手始めに手をつけていただければと思っておりましたのでよろしくお願いいたします。

（岩渕教育長）

高代さん。

（千葉社会教育委員）

大先輩のご意見、アドバイスを一緒に社会教育委員をさせていただいていて。私も全く全然知らない状態で入らせていただいたのですけれども。やはり町の活動、社会教育の現状なり。そういったようなものお話を聞くというのは、どうしてもメインになってしまいますし、意見として上げることができているという状況が今あるのですけれども、確かに、各種団体の方々が集まって、持ち帰って協議できているかどうかというのは、多少疑問符はあるところでありますが、それでも社会教育委員会議があることは大事なことだと思う。３回しかないですが、大事なことのきっかけになることだと思っています。更に活動を活発にしてほしいというご意見を頂戴しました。大きな宿題としていただきまして、まずいろんな世代の方が集まってその年代ごとに、いろんなもの意識だったり課題があると思いますので、どうしても会議に集まる年齢層が高めになってきてしまいますので、若干幅広い年代も含めて人選を考えなければいけないこともあると思いますし、それぞれがＰＴＡも入っているのですが、それぞれが持ち帰って、またここに会議に集まった時に、話題にできるというかたちに少しずつ切り替えていけるようになれば、また社会教育委員会議が発展していくのだろうなと思いますし、平泉町の社会教育に少しでも貢献できるかたちが生まれればベストだなとお話を聞きながら勉強させていただきました。ちょっと課題として持ち帰らせていた

だきたいと思います。
（岩渕教育長）
　高代さんだけの責任ではなくて、事務局の責任でもありますので。
（本澤委員）
　今のことで、私も逆側、図書館館長の時に、ちょっと社会教育委員会議というのに参加したことがあるのですが、その時疑問に思いましたし、何でもっといろんなことができないのかなと。意見を述べるだけではなくて、確か社会教育法の 17 条ぐらいだったかな。社会教育委員は計画立案もする職務なんですね。職務を掲げてあるのですが、あと先ほどお話出た高代さんから公民館の活動のいろんな事業の調査、データ化してほしいと仰った町研究調査の社会教育委員の職務なんですね。その時ちょっと感じて、こういうこと年３回だけの会議でできないなと思いながら図書館長を辞めてしまったものですから、何もできなかったのですが、そういうことがあるので遠慮しないでいいと思いますので。すみません。
（岩渕教育長）
　ありがとうございました。
（千葉社会教育委員）
　分かりました。
（岩渕教育長）
　今のに関連して、社会教育委員の役割という風なことについて、大変重要なお話でしたけれども何か感じられていることよろしいでしょうか。それでは、時間が迫って参りましたので、あと一言ずつ、１回ずつ今日の話し合いの中で関わることでもいいですし、また新たな考え方でもいいですけど感じられていること、こうあってほしいなということあれば、もう一巡りお話をお願いしていただいて閉じたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。それではどなたからお持ちの方いらっしゃいませんか？
（本澤委員）
　まず、今日は、全体的な社会教育についてということでしたけども、やっぱり新社会教育施設開館まで、まず１年ということで、まず願いというか私たちがやって行かないといけないのですが、円滑な引継ぎをして行きたいなと思います。そのためにはどんなことをしないといけないのか、そろそろというか、いろいろしっかりと掴んで実施していかなきゃいけないと感じています。あとは、また、どうしても新しい社会教育施設の運営の方がちょっと心配になってきて、そっちになってしまいます。すみません。やっぱり住民の人たちの学ぶ学習を学びを支援する役割というか機能が、本当に停滞しないで、レベルアップ、向上して行けるといいなと感じます。ということはつまり大事にするのは、いろんなサービスの質の向上とも言えると思いますので、是非、その辺がいろいろ難しいことや経済的なことも絡んでくると思いますが、町の支援も町長さんにお願い必要かと思いますし、運営は一般企業の会社がなさいますけど、お金は町でいいんですよね？よろしくお願いします。以上です。
（岩渕教育長）
　施設を建設するにあたっての約束事というのは要求水準書というのがあってそれに基づ

いて手を挙げていただいてというかたちになるのですが、その中には運営に関わってどういう風な名前になるか分かりませんけども、町民の方々の代表の方が運営協議会を組織していただいて、もちろん運営する会社の方が入ってくるわけでありますので、そういう風な場を年に３回、４回だったと思いますけども開くということが、取り決め上なっている。当然、教育委員会のサイドから、そして町民の方々、運営会社もということでいろいろ協議していただく。今お話にあった、学ぶ支援機能の向上とか、サービスの質の向上とか、そういったことのことについては当然論議をしていくわけで、そういって動いていく中で不具合とか、いやこれはもっとできるのではないかとか。或いはこうしてほしいとかそういったことについては話を伺いますということになっています。そこで、今の話は反映をしていかなければならないと思っているところであります。では、どなたかご発言いただきたいと思います。

（山平委員）

社会教育という大きなテーマですが、平泉学の展開として、表の中にある真ん中の３番、地域課題解決型の学習ということで、これは例えばの話なのですが、今、農業遺産の登録に向けて動いている中で課題になってきているのが、地域コミュニティーというところだと思うのですが、今、そこが薄れている中で、例えば地域の課題一つを解決するのに、一つのテーマを持っていく。講座を開く。例えばですけど、木を間伐したいんだけど、そういった末のところを知らないので、そういった講座を開きながら、その地域の課題として残っているところを活動拠点として、解決作業をしていくみたいなような講座があってもいいのかなと少し思っています。そうしていくと地域課題を解決しながら人を育てることが、その人が育って地域の課題を解決していくことが、発展していく可能性もあるのかなと思います。どうしても文化、スポーツみたいなところに講座というのは囚われがちですが、地域課題に着目するとそういったことが出てくるのじゃないかなと思いました。以上です。

（岩渕教育長）

ここに掲げておりますが、全部教育委員会サイドでやるものではなく、関わるのは、例えば農林課とか、ものによって福祉の関係とか様々ありますので、そういったところで町民の方々が集まった時に当然行政の方も加わってということになってくるかと思います。そういう意味では、幅の広い平泉学というかたちになるんだろうなと思っておりました。ありがとうございました。その他にいかがでしょうか。これだけはお話をしておきたいということ是非。町長さんには、一番最後にお話をしていただきますけど。

（千葉委員）

いつも一つだけで申し訳ないのですけれども、一つだけ。是非これは皆さんの中だけではなく、平泉町としてこうあってほしいということだけをお話すれば、私としては平泉学の名のもとにおいては、縦割り行政はないという風なことを是非実行できるように進んでいただきたいという風に思います。

（岩渕教育長）

大事なことであります。何となく平泉学、委員会だけで、一所懸命、大きな声でというの

は、今まではないわけではなかったことですので、連携ということで、縦じゃなくて横も考えていかなきゃならないなと思っているところであります。肝に銘じています。ではその他に。

（三浦委員）

やっぱり、この人口が本当に少なくなるんだなということが、数字で見ると驚くわけでありますけれども、やっぱり、町民としては平泉町に住んでいて良かったなと、住みよい町だなということを実感できる町であってほしいなと思います。住民に優しい。人を大切にするような、そういう行政であればいいかなと思いますし、それから私たち町民も平泉町がどうあるべきか、私たちはこの町をどのようにしていきたいかということを常に意識できるような、根底に社会教育活動の根底に、それぞれがそのような気持ちで活動に参加して行きたいなという風に思います。そのためには運営の仕方とか、それから実行する場合の大事なこととか、そういうこと、皆で町づくりという視点で人づくりという視点で、活動できるようなそういう組織、連携、社会教育施設実際に活動するにあたってはそのように引継ぎができればいいかなと思いました。以上です。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。ではよろしいでしょうか。それでは、町長さん最後にお話をいただきたいと思いますが、皆さんのお話を聞いて、お願いしたいと思います。

（青木幸保町長）

本日は、ご提言等を含めながら、今日は委員の皆さんのお話聞かせていただきました。ありがとうございます。私の原点にあるのは、20 歳頃から青年団をつくろうということで、各地域、当時５つの青年団を形成して、それを１本にして、平泉町青年団協議会という、今は、農村青年クラブと云います。何でそういうことをやったかというと、実は県の役員その時にやらせてもらったんですよ。全然面白くない。何が面白くないかと言ったら、地元にそういう組織がないのに自分だけ出て行ったって面白くない。やっぱりこんなこと県の役員なんてやるもんでない。やっぱり地元で皆でやった方が楽しいということでやったのですが、何故それをしたかというと、当時、今もだと思うのですが、やっぱり青年団とか、やっぱり若い人たちのそういった組織のやっぱり一生懸命動いている町、村は、もの凄い活気があるんです。それは全県的にです。青年団活動が活発だったり、農村青年部、商工会の活動、やっぱり若い人たちが一生懸命やっている町はどっかが違うんです。それは年配の方々も違うんです。そういう影響を受けるんです。みんなで。そういった意味では、これは違う。やはりそういったものを作っていかなければならない。つまり若い人たちがいろんな意見が述べれたり、行動できる、する。そういう地域をつくることというのが、実は大きな意味での町全体の当時は少子高齢化という言葉はあまりない時代だったですけれども、やはりそれを、今後支えていくのは、やっぱりそういう方々が、そこに根付いて、老いも若きも将来の事考えれる、そういう議論できる場が、皆さんが今日いろいろ協議していただいたことが総合的に結ばれていくことだと思うのですが、やはりそこが大事だというのか、原点というか、私はそういった仕組みを、今後町、としての総合計画を立てるにしてもですね、そし

てその施設を中心としながら、新たな施設を中心としながらですね、どう地域が能動的に動いていくかとか、やっていくかということがやっぱり課題だと思う。確かに予算が大事です。但し、やはりそこを動かすのが町に、一つ皆さん勘違いしないでいただきたいというのが一つなんですけども、今度、民間活力と云いましたが、ノウハウも民間の活力を取り入れてということであって、それ人たちが中心にやるということでは、ございません。先ほども運営協議会の話も教育長がしましたが、そこを動かしていくのは、まさしくそこに住む人たちであります。運営協議会一方的に、この事業をやりますよ。この事業をやりますよと、向こうに任せたら何されるか分からないというそういうものでは全くございません。民間の活力も活用して、実際運営していくのは自分、ですからむしろ運営をする会社の方は、地元の方の意見は聞かないで、逆にやれないんです。何をやったらいいか分からないわけですよね。ですから、そこはしっかりと連携を取って、やっていただきますし、会社さんも地域を無視してですね、自分たちの考えでやるということは全くそんなことは、逆におそらく、館長は地元の人をお願いするとか、どうなるか分かりませんが、そういうかたちで地元の方に入っていただかないと、実際の運営はやれないんです。ですから、先ほど教育長が難しい言葉で言いましたが、要求水準書というのがあるのですが、そういうことをやる。そういうことをやってくださいという「分かりました。」という人が入札、手を挙げてなったのですから、主役はまさしく皆さんですから、そこだけは勘違いしないで、これは町でどうするのかという意見もあると思いますが、それはしっかり受けながら進めて参りますので、いずれ今予算のヒアリング中でございまして、今１回やって２回目という最終段階で復活であります。今日の意見を取り入れて、教育委員会がいかに復活で迫ってくるかは教育委員会の、ただ、予算がつかない時はですね、私たちは要求したけれどもつけないのは、町長ですという答弁はしないようにお願いします。本日は、誠にありがとうございました。

（岩渕教育長）

ありがとうございました。今日は本当にたくさんのお話をいただいて、最初にお話をしましたように、何か方向性と云いますか、社会教育って、生涯学習って、こういうものだよなということが、整理されてということにはならないでしまったかもしれませんが、後で皆さんとお話大事な部分をまとめてみると、多分浮かび上がってくるところはあるのではないかなという風に思いますので、それは能力のある事務方が、一生懸命まとめると思いますのでご期待していただきたいと思います。３回目の総合教育会議ということで、本当にたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。これからも教育行政の繁栄をしていただく町民の方々の期待に応えられるようにとまた新しい年になりたいと思います。どうもありがとうございました。ご協議を終了させていただきたいと思います。

（岩渕教育次長）

ありがとうございました。それでは、長時間に渡り活発な意見をいただきました。ありがとうございました。以上を持ちまして令和２年度第３回平泉町総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。